

建築学専攻 授業科目関連表

科目群	1年		2年		
	前期	後期	前期	後期	
研究科共通科目	知的財産権出願特論 工学展望特論(社会人向け)	ISO学特論 ベンチャービジネス特論 企画力養成演習	(工学展望特論(社会人向け))		
	論文発表演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義Ⅰ 国際特別講義Ⅱ		(論文発表演習) (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ) (国際特別講義Ⅰ) (国際特別講義Ⅱ)		
国際教育科目	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学		(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)		
研究領域教育科目	研究領域G 建築計画系	建築意匠特論	建築計画学特論	(建築意匠特論)	建築史特論※
		ファシリティマネジメント特論			
		建築都市設計計画演習Ⅰ	建築都市設計計画演習Ⅱ		
	研究領域G 建築環境設備系	熱環境解析学特論※		室内環境制御学特論※	
		→ 熱環境解析学演習※		都市環境学特論※	
		建築エネルギー計画特論※		→ 都市環境学演習※	
		→ 建築エネルギー計画演習※			
	研究領域G 建築構造系	建築構造工学特論	→ 建築構造工学演習		
		木質構法・構造特論	→ 木質構法・構造演習		
		建築構造材料工学特論			
	→ 建築構造材料工学演習				
研究領域G 地域防災系	建築構造解析学特論	→ 建築構造解析学演習	都市計画学特論※		
			建築都市設計計画演習Ⅲ		
専攻指定科目	建築環境計測技術特論	建築都市人間工学特論*	建築インターンシップⅣa	建築都市人間工学特論*	
		建築構造計画学特論 建築インターンシップⅡ 建築インターンシップⅢa 建築インターンシップⅢb	建築インターンシップⅣb		
	建築インターンシップⅠ				
創成工学教育科目	生産管理論特論Ⅰ ものづくり管理工学特論 実践企業学	生産管理論特論Ⅱ 造船工学特論 先輩から学ぶ先端科学技術			
	建築学特別制作 建築学特別調査		(建築学特別制作) (建築学特別調査)		
特別研究	建築学特別研究Ⅰ	→ 建築学特別研究Ⅱ	→ 建築学特別研究Ⅲ	→ 建築学特別研究Ⅳ	

* 社会人向け（1年後期）と一般学生向け（2年後期）は年交互に開講

※ 隔年開講科目

コア・カリキュラムの表示→

必修

選択必修

工学研究科建築学専攻

科目区分/領域	到達目標	ディプロマ・ポリシー (DP) との関連				
		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
共通領域	学生は、建築学に関わる基礎自然科学について理解し説明できる。	○	○	◎		
	学生は、社会における建築物の役割や建築設計の任務を理解できる。		◎	○		○
	学生は、建築・都市の現状と発展における国際的・文化的多様性を理解できる。	◎		○	○	
	学生は、以下各領域の知識を総合して、建築物の設計を構想し、説明できる。			◎		◎
計画系領域	学生は、建築・都市計画に関する専門的知識および用語について説明できる。	◎	○		○	
	学生は、計画的知識を建築物の設計に論理的に適用できる。			◎		
	学生は、建築設計法を理解し設計の構想を図的・言語的に表現・説明できる。			◎	○	◎
環境設備系領域	学生は、建築環境工学・建築設備に関する専門的知識および用語について説明できる。	◎	○		○	
	学生は、建築環境に関する現象を数理的に説明できる。	◎		○		
	学生は、建築環境工学・建築設備の知識を設計・研究活動において論理的に応用できる。			◎		○
構造系領域	学生は、建築構造・材料・生産工学に関する専門的知識・用語について説明できる。	◎	○		○	
	学生は、建築構造・材料・生産工学に関する現象を数理的に説明できる。	◎		○		
	学生は、建築構造・材料・生産工学の知識を設計・研究活動に論理的に応用できる。			◎		○
地域防災系領域	学生は、各種災害が建築・地域に及ぼす被害現象とその要因を理解し説明できる。	◎	○		○	
	学生は、各種災害が建築・地域に及ぼす被害を防止する技術を理解し説明できる。		○	◎		○
	学生は、建築・地域における防災技術を設計・研究活動において論理的に応用できる。			◎		○

ディプロマ・ポリシー (DP) の説明

DP1：地域および地球的視点に立ち、文化や社会の多様性を理解する能力を身につけている。

DP2：建築技術者としての責任と役割を理解し、倫理的に判断する能力を身につけている。

DP3：建築物および地域における建築学上の問題を把握し、それらを解決するための高度な知識および解決するための技術を理解し活用する能力を身につけている。

DP4：建築活動の場で適切にコミュニケーションできる能力を身につけている。

DP5：建築物および地域における建築学上の問題に対する解決策を検討し、その内容を設計して提案する能力を身につけている。